

拉致をめぐる日朝間の対立で燃え上がる DNA 論争

DNA is burning issue as Japan and Korea clash over kidnaps

火葬された遺骨は、1977年に拉致された日本人少女の運命を語らない。

David Cyranoski (東京) Nature Vol.433(445)/ 3 February 2005

火葬された遺骨が1977年に拉致された日本人のものかどうかを判定する際に用いられたDNA鑑定をめぐる日本と北朝鮮の間に激しい論争が起こっている。

この論争は、両国の関係を何年にもわたってギクシャクさせてきた事件の最新の展開である。1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮は、少なくとも13人、ことによれば最大100人にのぼる日本人を拉致してスパイ養成プログラムに従事させていると考えられている。そして両国は今、拉致被害者の遺骨から採取されたDNAからその身元を正しく特定できるかどうかについて対立している。

2002年秋、北朝鮮はそれまでの長年にわたる否認の姿勢を変え、軍部の関与によって13人の日本人を日本とヨーロッパから拉致したことを認めた。北朝鮮の金正日総書記は、一連の拉致行為は政府に無断で軍によって遂行されたと主張した。日本政府は、これとは別に2人の拉致被害者がいることを示す証拠があると発表しており、実際には、これよりも多数の拉致被害者がいると考えている。

生存者の帰国を北朝鮮に迫った結果、5人の拉致被害者とその家族が日本に帰国した。残りの8人について北朝鮮政府は死亡したと発表したが、その安否情報はなかなか日本側にもたらされず、一部は今も生存しているのではないかと、という憶測を生んでいる。

2004年11月15日、平壤での交渉を終えた日本政府高官が、北朝鮮が横田めぐみさんの火葬された遺骨だと称する骨片を持ち帰った。横田さんは1977年、13歳の時に拉致された。北朝鮮の作成した報告書では、横田さんは北朝鮮の男性と結婚し、その後、精神病院に入院し

た後、自殺したとされている。

帝京大学で行われた5点の遺骨片の鑑定では、2人の人間のDNAが検出されたが、いずれも横田さんのへその緒から採取されたDNAとは一致しなかった。この鑑定結果は12月に北朝鮮に送付されたが、1月26日に北朝鮮政府は、鑑定結果を「捏造」だとする声明を発表した。

日本外務省の高島肇久報道官によれば、北朝鮮はDNA鑑定で用いられた方法に疑問を呈しており、1,200℃に加熱された遺骨に生きたDNAが含まれているはずがないと主張した。また北朝鮮政府の声明では、帝京大学の研究者がDNAを検出できて、同じく別の5点の遺骨片を鑑定した科学警察研究所ではDNAを検出できなかった点も疑問だとしている。

DNAは生き続けられるのか

日本で有数の法医学研究者である帝京大学の吉井富夫講師は、5点の遺骨片すべてからDNAを採取できた理由をいくつか挙げている。その1つは、ネステッドPCR（ポリメラーゼ連鎖反応）法という感度の高い方法を用いたことだ。通常のPCR法ではDNAの増幅が1回しか行われないが、この方法では、DNAを2回増幅する。もう1つは、吉井講師に渡された遺骨片の方が別の5点よりも良い状態だった可能性があることだ。「(DNA試料を扱うには)みんな独自の方法があります。統一化されていません」と吉井講師は語った。

火葬された骨片の法医学的検査が日本国内で行われたことはほとんどなく、吉井講師を始めとする専門家の多くが、1,200℃での火葬を経てもDNAが生存

する可能性は低いと考えていた。「とてもびっくりしました」と吉井講師は言った。ただし、加熱焼却時間そのものが短ければ、1,200℃の熱でもDNAは生存しうる可能性がある。信州大学で法医学を研究する福島弘文教授は、「温度だけでは何も言えません」と語る。

しかし、これまで火葬された骨片の鑑定経験のなかった吉井講師は、彼の方法による鑑定結果が決定的なものであるわけではなく、骨片に異物が混入していた可能性があることを認めた。「骨は硬いスポンジのようなもので、何でも吸収します。(この遺骨を)取り扱った人の汗や脂が骨の中にしみ込んでいたら、どんなにうまく洗っても(汗や脂は)とれません」と彼は言った。

北朝鮮は、これまでも拉致被害者の遺骨と称する骨片を日本側に引き渡した後に、それが別人の骨だったと認めたことがある、と高島報道官は語った。

日本政府は1月26日、北朝鮮政府の今回の対応を「遺憾」とし、「厳しい対応」を講ずる姿勢を明らかにした。高島報道官によれば、この「厳しい対応」には12万5,000トンの食糧援助の中止やその他の貿易制裁が含まれる可能性があると言われる。

日本の政府は、問題となっているDNAの再鑑定を希望する旨の発言をしている。しかし吉井講師は、(最大でも1.5グラムしかなかった)5点の骨片は今回の鑑定で使い切ってしまった、と語っている。このため、論争が決着する見込みはほとんどない、というのが識者の見方である。 ■